

探究 ひとを想い
先駆する青年たれ

一般社団法人 和歌山青年会議所

www.wakayama-jc.net

Report

2019年4月17日(水) ホテルグランヴィア和歌山 6Fル・グラン

仮入会者説明会及び名刺交換会

会員拡大委員会 委員長 玉置清正

4月度例会にて、仮入会者説明会及び名刺交換会を開催いたしました。

例年よりも多い約50名の入会候補者の方にお集まりいただきました。これだけの人数にお集まりいただけたのは、会員一人ひとりが会員拡大活動に真剣に取り組み、紹介いただいた結果であると思います。

仮入会者説明会では、和歌山青年会議所の定款や会員資格規定の説明をし、今後のオリエンテーションの案内を行いました。理事長をはじめとする会員4人がそれぞれのJCへの想いを熱く語り、入会候補者の皆様が真剣に聞き

入っている様子が印象的でした。

その後の名刺交換会では、多くの現役会員も参加し、華やかな雰囲気の下、多くの入会候補者の皆様と交流を図ることができ、JCが規律ある団体であることやその活動内容などを肌で感じていただくことができたと思います。

山路理事長が常日頃説明しているとおり、会員数が減少している和歌山青年会議所にとって会員拡大活動は極めて重要です。今後も会員拡大委員会は委員会一丸となって、一人でも多くの入会候補者の皆様を入会に導いてまいりますので、皆様ご支援ご協力をよろしくお願いいたします。



山路理事長のあいさつ



熱い想いを語る水野顧問



名刺交換会の様子



名刺交換会の様子



仮入会者説明会の様子

韓国議政府公式訪問

国際交流委員会 副委員長 山本晴輝

4月19日(金)から21日(日)までの2泊3日で、姉妹JICである韓国議政府青年会議所へ公式訪問に行ってきました。本年、議政府JICは創立50周年を迎えたこともあり、姉妹JICである台湾土城区JICも同時の受入れではありませんでしたが、本当に手厚い歓迎をしていただきました。また、文化体験では普段あまり行くことのできない場所へも行き、韓国の歴史について学ぶことができました。

1日目は早朝にもかかわらず多くのメンバーに関西国際空港まで見送っていただき、無事に仁川国際空港に到着しました。空港では議政府メンバーから心のこもったおもてなしを受けました。昼食では韓国の伝統ある3種類の鍋料理を頂きました。食後は議政府市役所へ移動し、議政府市長へ表敬訪問しました。議政府市の取り組みを日本語の動画で分かりやすく説明していただき、その魅力を知ることができました。その後、議政府JIC50周年記念式典に参加し、厳粛かつ盛大な式典には感銘を受けました。式典後の懇親会では議政府メンバー、土城区メンバーが入り交じり、和気藹々とした楽しい懇親会となりました。

2日目は午前中から公式会議を行いました。本年の和歌

山への公式訪問の日程や内容などを協議し、有意義な公式会議になりました。昼食では日本では珍しい韓国式ハンバーグ(トッカルビ)を頂きました。その後、歴史文化体験では、韓国と北朝鮮の南北境界線のDMZ(非武装地帯)を訪れ、第3トンネル、都羅展望台、統一村などを見学し、韓国の歴史を学ぶことができ、和歌山メンバーにも興味を持ってもらえたと思います。夕食会は議政府OBの特友会主催で行われ、懇親を深めることができました。

3日目は本来であれば仁寺洞へ観光、買い物に行く予定でしたが、時間が合わなかったため予定を変更し、議政府市内のショッピングセンターでの買い物になりました。昼食では韓国の鶏スープ(タッコムタン)を頂きました。その後、仁川国際空港に移動し、無事に関西国際空港に帰ってきました。

3日間を振り返りますと、異文化に実際に触れ、学ぶことができ、議政府メンバーとさらに友好関係を深めることができ、非常に有意義な訪問になったと思います。3日間お忙しい中参加していただいたメンバーの皆様には深く御礼申し上げます。



仁川空港でのお出迎え



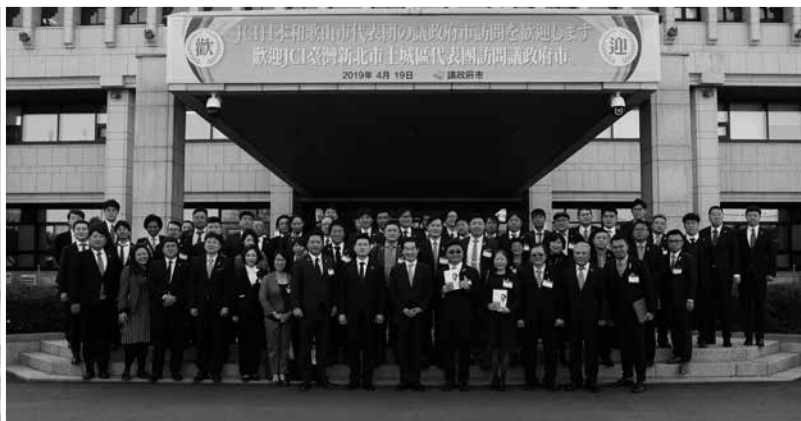
事業を担当した国際交流委員会



公式会議



議政府50周年記念式典



議政府市長へ表敬訪問

2019年5月5日(日) 和歌山城西の丸広場

子どもなかよしまつり

ひととひとを結ぶまちづくり委員会 委員長 瀧本拓起

長期ゴールデンウィークも終わりに差し掛かる5月5日こどもの日に、和歌山城西の丸広場にて和歌山市主催の「子どもなかよしまつり・音楽大行進」にてスタンプラリーを実施しました。

和歌山青年会議所として、令和に改元後初めてとなる本事業は天候にも恵まれ、多くの市民にご参加いただくことができ、スタンプラリーを通じて青年会議所メンバーと市民の皆様の交流が生まれ、笑顔溢れる一日となりました。

また、本年度は和歌山青年会議所公式キャラクターである「わとらん」にちなんだチェックポイントもあり、たくさんの子供たちにキャラクターを知っていただく機会となりました。

結びになりますが、子どもなかよしまつりにご参加いただいたメンバーの皆様におかれましては、多大なるご協力を頂きありがとうございます。



山路理事長の挨拶



オープニングセレモニー



スタンプラリーの様子



わとらん with こどもたち



メンバー集合

6 月度告知

6 月度例会

2019年6月21日(金)
午後7時から(受付開始午後6時30分)
和歌山県勤労福祉会館プラザホール

6 月度例会では、公益社団法人日本青年会議所の賛助企業である株式会社銀座山形屋の東氏を講師としてお招きし、ビジネスにおけるファッションとフォーマルファッションの基本と着こなしについての学びの場として開催させていただきます。

月に1度、スーツ着用で出席する例会の場で、ビジネスにおけるファッションを学んでいただき、今後の活動に役立てていただければと思います。奮ってご参加いただきますようお願い申し上げます。

(例会委員会 委員長 田代紘規)

第2回わんぱく相撲和歌山県大会

2019年6月23日(日)午後3時開会

本年度は第2回わんぱく相撲和歌山県大会を和歌山県営相撲競技場にて行います。本年度も地方大会(有田場所、御坊場所、和歌山場所)の優勝者(4年生、5年生、6年生)による和歌山県大会を開催し、東京都墨田区総合体育館で行われる全国大会に参加する和歌山県代表を各学年2名決めます。是非ともメンバーの皆様、和歌山場所代表の子供たちへの力強い応援に駆けつけてください。よろしくお願いいたします。

(会員開発委員会 委員長 和田篤樹)

第3回オリエンテーション

2019年6月13日(木)
午後7時(受付開始午後6時30分)
一橋庵別館

第3回オリエンテーションを開催します。仮入会者に最後の入会説明を行い、入会の意思を固めていただいた上で、入会申込書と誓約書に署名していただくという極めて重要な場となります。

多くの候補者を参加に導き、同志を獲得できるように最後まで皆様のご協力をいただきますようお願いいたします。

(会員拡大委員会 委員長 玉置清正)

事務局だより



住所変更

特別会員 中筋(旧姓松田)多永 先輩

特別会員 辻本章統 先輩

現役会員 辻本智子 君

6 月 スケジュール

2	日		
3	月	GTS(パリ)	パリ
4	火		
5	水		
6	木	第11回財政規則審査会議	事務局
8	土	第12回三役会	株式会社ナルセ
9	日	J C カップ	新宮
12	水	理事会	商工会議所特別会議室
13	木	第3回オリエンテーション	一橋庵
15	土	交流ゴルフコンペ	和歌山カントリー倶楽部
17	月		
18	火	ASPAC	済州
19	水		
20	木		
21	金	例会	勤労福祉会館プラザホール
23	日	わんぱく相撲和歌山県大会	和歌山県営相撲競技場
24	月	第12回財政規則審査会議	事務局
		近畿地区正副会長会議	守山
25	火	近畿地区正副会長会議	守山
		第6回会員会議所会議	WEB
26	水	第13回三役会	株式会社ナルセ
		第6回会員会議所会議	WEB
27	木	第6回会員会議所会議	WEB
28	金	委員長会議	あいあいセンター
30	日	海南JC 50周年記念式典	海南

わとらんが行く！和歌山市が誇る企業の現場 「加太まちづくり株式会社」編

取材協力：加太まちづくり株式会社 取締役常務 稲野雅則 様・執行役員 森田大介 様

1 加太地域の活性化に向けて

加太地域は深刻な人口減少問題に直面しています。私たちが小学生のとき(昭和50年代)には加太小学校の児童数は600名くらいでしたが、今では60名くらいにまで減少しました。このままでは地域を維持できないという危機感を覚え、住民有志が集まって平成21年に「加太地域活性化協議会」という任意団体を設立しました。みんなで話し合ったりワークショップを開いたりしているうちに、具体的な目標として「2060年に加太小学校の児童数を210名にすること」を掲げることにしました。児童数が増えるということは親世代が加太地域で生活しているということになるからです。また、平成27年に「加太まちづくり株式会社」を設立し、任意団体だけではカバーできないことにも対応できるようにしました。

活動資金は常に不足しがちでしたが、金融機関から「地域活性化ファンド」を教えてもらって申請したところ、これが認められて出資を受けることができました。行政を介さずに出資を受けたのは日本で初めてとのことで、日本経済新聞にも取り上げられました。

「加太地域活性化協議会」と「加太まちづくり株式会社」は形式的には異なる団体ですが、どちらも加太地区連合自治会の会長が代表を務めており、双方の団体の適性を使い分け、車の両輪となって加太地域の活性化のために活動しています。

2 埋もれていた地域資源の活用

加太地域は昔から漁港としてのブランド力があり、関西では「明石の鯛」よりも「加太の鯛」の方が有名だったほどです。人の流れも多く、最盛期には友が島への来島者数は年間9万人ほどありました。しかし、時代の流れとともに一次産業である漁業はどんどん廃れ、働く場もないまちからは人が流出し、地域は衰退していきました。来島者数は年間2万人を切るようになり、フェリーを運航していた会社も撤退するなど危機的な状況に陥りました。

転機が訪れたのは平成24年ごろです。関西でコスプレイベントを企画している団体が大々的に友が島を訪れたいとのことで、当日フェリーが欠航したときのために本土側で着替え場所の提供などの協力を求められました。何人くらい来るのかと聞いたら300人も来ると言うのです。有名なアニメの舞台に雰囲気がいっているという口コミがSNSなどで拡散し、多くのコスプレイヤーが友が島を訪れるようになりました。Yahoo!トピックスでも取り上げられ(広告として依頼したら掲載料が2000万円くらい要するそうです)、一般のお客さんの来島者数も増加しました。昨年の来島者数は年間8万人となり全盛期に迫る勢いです。私たちは友が島の砲台跡などが観光資源になるとは夢にも思っていなかったのですが、実はそれが人が惹きつける隠れた地域資源であり、上手く活用されたのです。

他にも加太地域にとって幸運なことがありました。平成30年に東京大学の分室が加太地域に設置されたのです。一次産業を基盤として美しい自然を備えた日本の原風景と呼ぶような場所は日本中にありましたが、産業構造の転換とともに刻々と失われています。そこに、最新技術を活用して省エネルギーを推進し、既存のまちを再編するスマートコミュニティ構想を実現する候補地として加太地域が選ばれたのです。



平成27年から東京大学生産技術研究所の川添善行准教授と大学生が加太地域を訪れ、1年かけて調査してくれました。他に2つの候補地があったのですが、最終的に加太地域が選ばれ、研究員が常駐する分室が設置されるに至りました。川添教授には海外のように地域全体が自然と一体化し、統一されたデザインをしてもらうようにお願いしており、東京大学、和歌山市、加太地区の3者で月に1回プロジェクト会議を開いてまちづくりを進めています。

3 今後の課題

地域を活性化するにはお祭りやイベントを催すというのも大事ですが、やはりいろんな産業を作って働き口を増やさないと人口も増えず、まちの賑わいを取り戻すことはできません。

加太地域には多くの歴史ある古民家がありますが、空き家が多く、これを飲食店やゲストハウスなどの宿泊施設として再活用すれば、そこで働く人が増えていきます。最近も若い人が古民家を活用して地場の食材を使ったおしゃれな飲食店をオープンしました。こうした歴史ある古民家も貴重な地域資源であり、どんどん活用していきたいと思います。

空き家の所有者は、変わった人を入居させて隣近所に迷惑をかけてはいけなくとて第三者に貸したり売ったりするのをためらう方が多いのですが、活性化協議会が入居希望者を仲介することでそうした心配を取り除き、空き家の活用に繋がっています。

今は活性化協議会もまちづくり株式会社も役員は無報酬です。空き家の仲介手数料などで収益を上げられるようにして、従業員を多く雇用し、役員報酬も払えるようにして、それ自体がひとつの働き口になってくれればと思います。

ゆくゆくは日本初のまちづくり株式会社として上場することが私たちの夢です。加太地域には多くの土地があり、美しい海があり、多くの地域資源があります。上場することは決して夢物語ではないと思っています。

4 現役会員へのメッセージ

和歌山青年会議所では、事業の企画・運営に携わることが多く、本業だけではできない体験をすることができましたし、いろんな職種の方と知り合うこともできました。青年会議所活動を通じて得られた知識・経験・人脈は現在のまちづくり活動に大いに役立っています。

和歌山市の人口減少率は全国平均よりも高いのですが、加太地域は中でも特に高く、高齢者数の割合も高いのです。今、加太が直面する問題はいずれは和歌山市全体、延いては日本全体で必ず起こることでしょう。私たちは加太地域で生活しているので、この現状をいち早く肌で感じることができ、深刻に受け止めています。地域の衰退が自分自身の生活の危機であると考えて、自分の生まれ育った加太地域の活性化のために活動しています。皆さん也和歌山市の現状を深刻に受け止めて、危機感を持って活動していただきたいと思います。

後で知ったことですが、他の2つの候補地ではなく加太地域が東京大学の分室の設置場所として選ばれたのは、私たちのような若い世代がまちづくり活動に多く従事していたからだそうです。ぜひ皆さんも若い力を活用し、明るい豊かな社会を実現していただけるように期待しています。



編集・発行

一般社団法人 和歌山青年会議所

和歌山市西丁丁36番地(和歌山商工会議所5F)
TEL.073-428-3334(代) FAX.073-431-1693
URL: <http://www.wakayama-jc.net>
mail: office@wakayama-jc.net



Junior Chamber International Wakayama